

三浦明美¹・関野展寿²：石垣島にトグロコウイカの漂着Akemi MIURA¹ and Hirohisa SEKINO² : *Spirula spirula* stranded on the beach of Ishigaki Island, Japan

トグロコウイカ *Spirula spirula* (Linnaeus, 1758) は頭足綱トグロコウイカ科のイカで、多室に分かれたらせん形の貝殻をもつ。全世界の熱帯水域、水深200~700m位の中層に浮遊している (奥谷 2015)。この多室に分かれた殻は、浸透圧調節によって殻内部の液体を出し入れし浮力を制御する (佐々木 2010)。殻が浮力を持つため、殻のある体後端を上にして、垂直に浮遊していると推定される (奥谷 2015)。死亡すると殻のみが浮き、海岸に漂着する。日本においても南西部の海岸にまれに漂着している (中西 1999) が、その記録は少ない (林 2012, 寺本 2019)。

漂着記録

2020年6月23日、沖縄県石垣島の電信屋跡のビーチ (図1) にて、トグロコウイカの殻 (図2) を1個採取した。発見時 (午前10時) の天候は晴れ、気温30°C。当日の満潮7時52分、干潮14時57分であり、まだ潮は大きく引いていない砂浜で、木屑やゴミの中から本種の殻を発見した。

採取した殻は長径13mm、短径10mm、殻口の径6mm、気室の数16。初期室 (胎殻) は欠損している。図2Aで殻の巻いた隙間にあるものはエボシガイの付着である。洋上を漂流している間にエボシガイが付着したものと思われる。図2Bで殻口の中に矢印で示した穴は連室細管の入り口である。アンモナイト、オウムガイ、トグロコウイカなど多数の気室に分かれた殻をもつ頭足類では、気室をつなぐ連室細管があり、浮力を調節する上で重要な器官である (佐々木 2010)。トグロコウイカの連室細管は殻の内側に沿う (奥谷 2015)。一方、アンモナイトの連室細管は殻の外側に沿い、オウムガイの連室細管は殻の中央部を貫通している。また、アンモナイトとトグロコウイカは初期室をもち、オウムガイは初期室をもたない。これらの特徴から、アンモナイト亜綱と鞘型亜綱 (トグロコウイカを含む現生頭足類) は近縁であり、オウムガイ亜綱とは明瞭に区別される (大場 2005)。

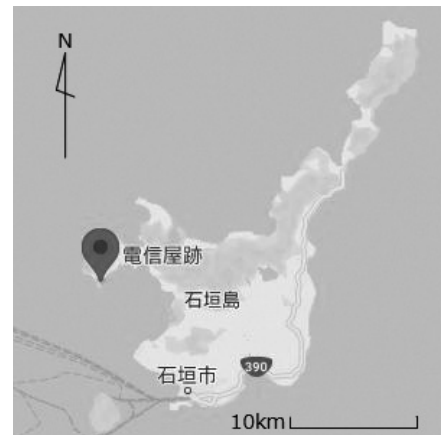


図1

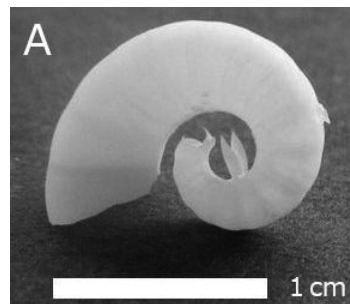


図2A

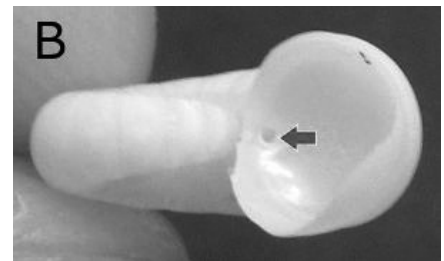


図2B

謝辞：Twitterでトグロコウイカの殻を拾ったことをツイートしたところ、沖縄県海洋深層水研究所の寺本沙也加さんより漂着物学会誌への投稿を勧められたので、記してお礼申し上げます。

引用文献

- 林 重雄 2012. 愛知県田原市にトグロコウイカの漂着. 漂着物学会誌, 10: 37-38.
 中西弘樹 1999. 漂着物学入門. 平凡社新書. 211pp.
 奥谷喬司 2015. 新編 世界イカ類図鑑. 東海大学出版部. 246pp.
 大場秀章 2005. 標本は語る. 東京大学出版会. 233pp.
 佐々木猛智 2002. 貝の博物誌. 東京大学出版会. 193pp.
 佐々木猛智 2010. 貝類学. 東京大学出版会. 382pp.
 寺本沙也加 2019. 2018年に沖縄県久米島に漂着した浮遊性軟体動物5種について. 漂着物学会誌, 17: 25-26,
 (Received Aug. 12, 2020; accepted Sep. 15, 2020)

¹ 〒183-0004 東京都府中市紅葉丘1-28-3-306

² 〒183-0026 東京都府中市南町6-25-1-104